

今日も「丁あがり」

ネギ収穫機の部品強度を上げて
硬い土の地域でも使えるようにせよ！の巻

皆さん、こんにちは！ 先日、東

京西川のAIRマットレスの試眠会に参加してまいりました。そう、ネイマール選手や大谷翔平選手が愛用しているという噂のアレ。まずは睡眠から改善せねばと意識高めなロブストス高垣でございます。今月の原稿、実は北海道で書いているんです。大学の実証実験に関する改造案件でお世話になっているのは、オサダ農機さん。工場は綺麗に整理されていて、社員の皆さんはとても親切で、感動しております。たとえば、僕の仕事を気にかけて、ドラム缶とコンパネで即席の作業台を作ってくださったんですね！ こんな親切なおもてなしは初めてで。これまで関わったなかで最も気持ち良くお仕事をさせていただいています。ヤンマー×オサダ農機で開発したキャベツ収穫機の販売が伸びているという話を聞きますが、「成功の裏に良い組織あり」ですね。ということ、今回は野菜収穫機の改良について弊社の

代名詞とも言える案件をご紹介しますように！

土質と部品強度のミスマッチ

以前にご紹介した小橋工業のネギ収穫機SOFYですが、一度使い始めると、それまでの鋤掘り、ましてや手掘りには戻れないと皆さんおっしゃるほど便利な機械なんです。ところが、群馬や埼玉では冬場の収穫時期に土が硬くなり、掘取部の部品強度がミスマッチを起こすことが……。部品が変形してしまったり、チェーンコンベヤとローラーがうまく機能しなくなり、掘取部と擦れ合ってボロボロになってしまいうんですね。便利なはずなのに購入を躊躇するお客さんにディーラーさんは販売しづらい状況だったわけです。それはもったいない！ この問題は解決できるはず！！



写真1：ネギ収穫機SOFY



写真2：変形してしまった掘取部



写真3：擦り切れてしまった掘取部



写真4：補強パーツを取り付け、カスタマイズされた掘取部

役割分担で現場がポジティブに

このカスタマイズの受注件数は群馬・埼玉ですでに50台ほど。いまだは新車を納車する前段階でこの補強カスタマイズを施すことがスタン

「今回の工程はコチラ」

- ①レーザー加工や曲げ加工で、機械に合わせた補強パーツを準備
 - ②サンダー&ドリル&溶接
 - ③新車同様にキレイに塗装
- 北関東の硬い土質にも耐えうるような過不足なく補強して、バリバリバリッと完成！



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。㈱ロブストス代表取締役社長。

ダードになりました。

「メーカーさんはなかなか現場のニーズに添えてくれない」という現場のボヤキを聞きますが、最近ではメーカーさんのご苦労も理解できるようになってきました。部品総数が数百点になるお仕事を経験したり、機械メーカーさんの工場で作業させていただいたりすると、膨大な数の部品を管理して、組み立てて、製品管理するのは本当に大変だとわかります。特定のユーザーや地域限定で発生する不具合にすべて対応するのは至難の業。そこにロブストスの出番があると思います。僕たちが困り事を解決できれば、農家さんは機械メーカーさんに対してボヤくことなく、ありがたうって笑顔でいられるはずです。役割分担をして、日本農業に貢献していければと思います。ということで、最初から最後まで意識高い感じ（笑）でしたが、今日も一丁あがり！